

黒石の黒石

山岡 邦章

皆さんは考古学というものにどのようなイメージを持っているのでしょうか？いわゆる「ハケでチビチビ掘っている・・・時間のかかる作業・・・」みたいなイメージが第一にあるかと思います。次に最近話題にもなりました「卑弥呼の館？」みたいな「出たら、歴史の事実を塗り替える・・・」ようなイメージでしょうか。やはり考古学の面白さはこういうところにあるのだと思いますよね。

でも、今回の調査は、ある意味逆の成果があったかも知れません。

山直中町の水田の中に黒石と呼ばれる大きな石があります。ご察しのとおり、山直中の黒石という地名はこの黒石からきたものであり、周辺にはやはり黒石さんという姓の方が多いのです。名前は黒っぽいその色から名づけられたといわれますが、その場所が中世の地割が残る山直中町と稲葉町との境界付近であり、傍示（ぼうじ）石、あるいは畔（くろ）石であったのではないかとともいわれています。また、資料では神様の一種、賽の神（さいのかみ）的な意味合いもあったのではないかとともいわれ、稲葉では夏になるとこの付近に「虫除け」のお札を立てたらしいともいわれています。さらに付近の方のお話では「雷の石」ともいわれていたようです。子供の頃、「雷が落ちてこの石になった」と聞いて、積川村から見に来たらしい話も聞きとれました。

今回、この黒石を調べる機会がありました。周辺の開発に伴い、大部分が埋まってしまうので、お願いして調べさせてもらいました。もしかしたらこの石は神様かも



図1 山直中町の黒石



図2 調査トレンチのようす

知れないので、調査に際しては傷つけないように慎重に調査トレンチを入れました。

結果、写真を見ていただけるとわかるかと思いますが、この石は現在の耕作土の中に地中部分があり、近世（江戸時代）の耕作土の名残のようなものを切って座っています。確実に中世の層の上に乗っかっていますので、中世（鎌倉～室町時代）以降、ある程度の近世の耕作土層が形成された後据えられています。つまり、据えられた年代は、どれだけ遡っても江戸時代の中ごろで、なぜか江戸時代の耕作土層があまり残っていないので詳しくは言い切れませんが、調査の印象を交えて思い切って言うと、江戸時代の終わりのころではないかと思われます。

石の周囲も探ってみました。神様としてお祀りしたような形跡も見当たりませんでした。実際、発掘調査では虫除けのお札は見つけることができませんが、その他の祭壇状のもの、地鎮などの遺構もありません。雷の石説についても実際の石材としては「センリョクカコウ岩」という石で、残念ながら雷では生成されないものでした。しかし、周辺ではこういった石が採れる露頭がありませんので、どこからか運ばれてきた石であることは間違いなさそうです。また、層の鉄分沈着（稲の根によって生成される鉄分）の状況からも江戸時代の耕作土の中に座っており、古い時代の畦の上に乗っかっているような形跡もなく、畦石説も疑問でした。石表面の観察でも、何かを彫り込んであるような箇所は見当たりません。

以上の結果からは、神様であるのもやや疑問であり、中世地割の坪境の表示石というのも疑問だし、もちろん雷石説も疑問という結果になりました。

いかがでしょう？ローカルな伝説に対して、おおまじめに考古学をやってしまうと、こういう結果を生んでしまいます。考古学は時に絶対的な威力を発揮しますが、こういう伝説や夢は、調査せずにそのまま置いておいた方が楽しいのかも知れませんね。

（やまおかくにあき：郷土文化室）

校庭の植物3 モチノキ科

岡本 素治

学校や一般家庭の庭、公園などによく植えられているモチノキ科の植物として、モチノキ（図1左）とクロガネモチ（図1右）があります。花を楽しむというより、緑の葉にはえる赤い実を楽しむ木です。生



図1 モチノキ（左）とクロガネモチ（右）



図2. モチノキ科のタネ。左より、モチノキ、クロガネモチ、ナナメノキ、ソヨゴ

け垣には小さい葉を密に付けるイヌツゲがよく使われています。イヌツゲは黒い実を付けます。山手の学校なら、周辺の森や林にはナナメノキやソヨゴ、お寺や深い谷にはタラヨウ（図3）もあるかもしれません。大阪近辺によく見られる常緑性のモチノキ科植物は、以上の6種です。落葉性の種類には、ウメモドキ、アオハダ、タマミズキがあります。

モチノキ科の植物の一般的な見分け方は図鑑等を参考にしてもらうことにして、ここでは果実の特徴に注目して常緑性のモチノキ科植物を見てみましょう。モチノキ科植物は、モチノキ科であることが分かれば、種類の特徴ははっきりしていて、簡単に検索表をたどることができます。モチノキ科であるかどうかを調べるのは意外に難しいのですが、果実を見るのが一番確実です。モチノキ科の果実には、頂部に黒いヘタのようなものが付いています。これは、花の時に花粉を受け取る役目をする柱頭の名残です。花柱が発達せずに、柱頭がまるで河童の頭の皿のように子房の上に張り付いているのがモチノキ科の花（果実）の特徴です。こんな柱頭を持つ花はそれほど多くありません。子房を横に切ってみると、中はいくつかの部屋に分かれています。モチノキは4室、クロガネモチは6～7室というふうに種類ごとに数が決まっています。果実時には、部屋ごとに丈夫な殻で包まれ、内部に1種子を入れたタネ（核）となります。こうして、成熟した果実をつぶすと、スイカを縦切りにしたようなタネがたくさん出てくるのです。

うれしいことに、このタネの表面には種類ごとに非常にはっきりした模様があります（図2）。モチノキはしわしわのような模様、クロガネモチは背面に3本の細い筋、ナナメノキは背面に1本の深い溝、ソヨゴはなめらか、といった感じです。

このようにタネに着目することの利点は、同定の助けになることだけではなくありません。モチノキ科などの、周りに柔らかい果肉があり、中に堅いタネがある果実は、小鳥たちの冬の間の大事な食料となっています。小鳥は果実を丸呑みにし、果肉は消化しますがタネは糞として出します。こうしてタネはいろんな場所に運ばれているのです。ヒヨドリやメジロの糞の中にたくさんのタネが入っています。糞の中のタネを調べることで、その小鳥が何をどのくらい食べているかが分かるのです。鳥の糞を集めて、中に含まれている植物のタネを調べるのは、たいへん楽しい研究です。そのためには日頃

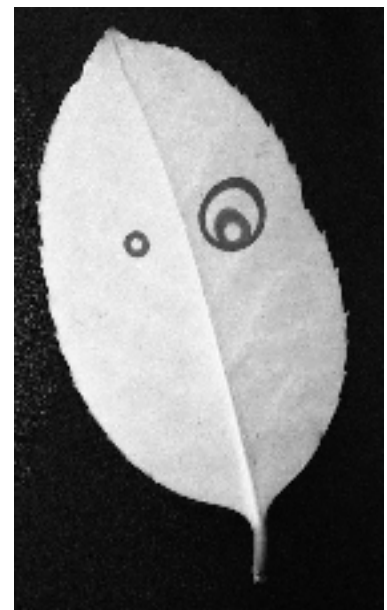


図3. タラヨウの葉にできた死環

からいろんな果実のタネをよく見ておく必要があります。まず手始めに、特徴がはっきりしているモチノキ科のタネから始めてみてはどうでしょう。

モチノキ科は、葉もおもしろい遊びの材料になります。図3はタラヨウの葉に線香の火を近づけて作った模様です。火を近づけると熱で細胞が死に、細胞内の微細構造が壊れて酸化酵素が出ます。これが細胞内のタンニンを酸化して褐色になります。リングの中心部では、熱を受けすぎて酸化酵素が活性を失ってしまったために緑色が残っているのです。このようなリングを死環と呼んでいます。火で熱するのではなく、葉の表面を釘などでひっかくことでも酸化反応が起こります。こうして葉に字を書くことができるので、タラヨウは「葉書の木」とも呼ばれ、郵便局のシンボルの木となっています。この実験は、タラヨウだけでなくモチノキやクロガネモチでもきれいにできます。

(おかもともとはる：自然資料館館長)

Information

■自然資料館からのお知らせ■

日本財団助成事業

特別展「チリモン積もって山となる ～これがチリモンモンスターだ！～」

チリモンモンスター実習」は、身近な食品の一つであるチリメンジャコの混獲物を調べて海の中の生物について学ぶ、自然資料館発祥の人気実習イベントです。2004年の初登場以来、2009年で6年目になります。

この特別展では、「食べる」「多様さ」をメインテーマに、各分野にわたるチリメンジャコにまつわる物事を一同に集めて紹介しました。おうちの食卓から、自然や社会の多様性の世界へと旅に出てみませんか？会期中には、チリモンに関する教員研修も実施します。

- ・会期：平成22年1月19日（火）～3月14日（日）
- ・場所：きしわだ自然資料館1階ホール
- ・開館時間：午前10時～午後5時（入館は午後4時まで）
- ・休館日：毎週月曜日（祝日は開館）、2月12日（金）（展示前臨時休館日：1月15日～17日）
- ・入場料：大人400円（常設展示含む）、中学生以下無料

・協力：海と船の博物館ネットワーク・きしわだ自然友の会ほか

・主な展示内容：チリメンジャコにひそむモンスター、チリモンのつながりと役割、生きているチリメンモンスター、イワシシラス漁と大阪湾岸のくらし、チリモンから広がる食の世界、チリモン体験など。

■岸和田城の展示案内■

企画展「くらしの道具」

江戸時代から昭和戦前期頃までの庶民の生活道具類約40点を展示します。

- ・会期：開催中～平成22年3月14日（日）
- ・時間：午前10時～午後5時（入場は午後4時まで）
- ・入場料：大人300円、中学生以下無料
- ・休場日：月曜日（1月11日は開館）、年末年始（12月30日～1月4日）
- ・主な展示資料
行灯（あんどん）、天秤（てんびん）、ハエ取り瓶、箱膳ほか約40点

※お願い [fromM]は、学校教職員に1部ずつお配りください。

担当の方はお忙しいところ申し訳ありませんが、よろしくお願い申し上げます。

【from M】では、みなさまからのご意見、ご感想、ご質問等をお待ちしています。博物館での学習、研究等に関する情報、地域の自然環境や歴史に関する面白いトピックスなどがありましたら、ぜひご投稿ください。お名前、連絡先、所属等をご記入の上、右記の宛先までお送りください。電子メールでも受け付けています。

連絡・問い合わせ先

〒596-0072 岸和田市堺町 6-5 きしわだ自然資料館
TEL: (072) 423-8100 FAX: (072) 423-8101
Email: sizen@city.kishiwada.osaka.jp
自然資料館ホームページ URL:
<http://www.city.kishiwada.osaka.jp/site/shizenshi/>
Yahoo Japan の検索で「きしわだ」と入力し、検索すれば、簡単です)